



Challenge

No.16

呉市立蒲刈中学校
第2学年通信
令和4年11月1日

「知は力なり」「経験は力なり」と言うけれど・・・ ～私たちはなぜ学ぶのか～

「知は力なり」これは、かの有名なフランシスコ・ベーコン（16世紀から17世紀にかけてのイングランドの哲学者）の言葉で、物事を深く知ることは大きな力になるという意味です。そして、人間の知識というのは経験から構成されるということで「経験は力なり」とも言われます。



たしかに、16, 17世紀は物事について分からないことばかりだったでしょう。だからこそ経験を通して得た知識こそが大きな力になったのでしょう。しかし、21世紀の現代社会においては、多くの先人たちの力によっていろいろなことが解明されています。先人たちの努力のお陰で多くの知識が蓄積されています。現代を生きる私たちに求められているのは、その蓄積された知識と知識を結びつけ、いかに活用するか、そういうことだと思います。

10月26日（水）の朝日新聞の教育欄に解剖学者の養老孟司さん（「バカの壁」などの数多くの著作があります）の記事が載っていたので紹介します。

僕にとって、解剖学とは、いわば方法論です。解剖するものは、カエルでも、昆虫でも、永田町でも何でもいい。観察して、分類して、概念化する。この見方を学んだので、色んなことを考えることができる。

例えば、哲学でさえ、誰かが言ったことを暗記しているだけの人もいます。それでは役に立ちませんよ。

そうではなくて、その人の考え方を応用することが大切です。方法を学ばないと、何も学んだことにはなりません。

（中略）

人間の活動の大部分は「意識」に基づきます。しかし、この世界は、論理一辺倒、人の意識だけでできていません。全てのものごとを言葉にできるとは限らない。それが「バカの壁」になる。

そうした考え方を身につけるためには、身体を使うことが重要です。ガスや電気が止まった時に、火をおこせるのか。トイレがない時、穴をどう掘るのか。そういうことから学びは始まると思っている。都市化が進み、身体を動かして経験から学ぶことが軽視されていることに、危機感を感じています。

（中略）

便利な時代になった。逆に何が必要かよく見えない時代でもある。ネットに情報はあふれているが、共感できるものばかりを見ていたら頭は固くなるよ。

社会のシステムが大きくなり、安定はしているけれど、自分が働いた結果がどう自分に返ってくるか、よく見えない社会になってしまっている。その分、参加している人の生きがいや素朴な感覚が失われてしまっている面もあると思います。大学の時の先生がよく、「教養とは、人の心がわかること」と言っていました。

コロナ禍やウクライナでの戦争など、予想もしなかったようなことが起きる時代でもあります。ただ、メディアが報じて、実感に伴わないことも多い。そこを埋めていくのが、想像力だと思います。

日常生活で見過ごしている当たり前のことは、案外、複雑にできていて大切です。当たり前のことが、当たり前でないと気付くためにも、学ばないとはいけません。



道徳の学習（リスペクト アザース）

10月25日（火）の道徳の授業では、それぞれの個性と人権を尊重する大切さについて考えました。

〔あらすじ〕

日本人の両親を持つ主人公の「僕」はアメリカで生まれ、10歳半までアメリカのサンディエゴで生活をしていました。地元の保育園、幼稚園、小学校に通った「僕」は「リスペクト アザース」を根本的な考え方として育ってきました。人間関係のトラブルが起こると、先生たちはそのたび「意地悪しないで、みんなで仲良くしなさい」とか「いじめはダメ」とか行動を注意するのではなく、「リスペクト アザース（他の人のことを尊重しなさい）」と言います。そんな「僕」は、日本の生活の中で違和感をおぼえます。自分が上手くできたことを周りの人に伝えると「自慢している」と言われたり、友達同士、相手を侮辱するようなひどい言葉を言っても「冗談」と言っとうやむやにされたり…。



【差別や偏見を生む原因は？】（学習シートより）

- ・一つの見方しかしないこと。
- ・自分と違うものを認めようとしないこと。
- ・ねたみがあることや、目立つことを嫌う風潮があること。
- ・いろいろや個性があることを認めることをできていない人がいること。
- ・偏見は、その人の外見だけで判断して中身を知ろうとしない姿勢があること。
- ・自分の価値観を相手に押しつけようとする傾向があること。
- ・自分が思っていることと相手の意見が違った場合、違いを認めようとせず、自分の意見だけを大切にしようとする。
- ・個性を潰してしまうこと。

相手を侮辱するようなひどい言葉を言っても「冗談」と言って済ますようなことをしていませんか？私たちの日常生活で心当たりはないか、もう一度自分達の言動を振り返って考えてほしいのです。

（例）かまチコとクラスメイト（栗ボー）との会話から

栗ボー：チコちゃん、どこから来たん？

チコ：県北よ！山に囲まれとって、とってええ所よ！でもね、野生の猿やイノシシ、鹿も出るんよ。

栗ボー：へえ～。そういや、チコちゃん、猿に似とるね。先祖は猿じゃったんじゃねえ？ふるさとに帰れや！

チコ：…。(暗い表情)

栗ボー：ここは、チコちゃんのおるところじゃなくねえ？はよう、ふるさとの県北に帰れや！

チコ：帰らん！だって、チコは、もうここに住むことになったんじゃもん！

栗ボー：チコちゃん、先祖のいるふるさとに帰ったらよくな～？

塚ちゃん：栗ボー、ええかげんにしんさいや！チコちゃん、そんなこと言われたら嫌じゃと思うよ。

栗ボー：チコちゃん、今の嫌じゃった？

チコ：チコは別に気にしとらんもん。(小さな声で)

栗ボー：ほれみ～。本人が嫌じゃ言うたらんもんじゃけん、冗談じゃけん。

冗談が分からんチコちゃんの方がいけんのよ！

皆さんはこのやりとりから、どのように感じましたか？



保護者の皆様へ

10月30日は、道徳授業、学習発表会を参観いただきありがとうございました。